

## 令和7年度 北区立梅木小学校 自己評価報告書

北区立梅木小学校 校長 大木 秀政

## 自己評価の結果と分析並びに改善の方策

本校では、前年度との比較で、課題の把握及び次年度の改善すべき事項を数値化し明確にした。自己評価項目に対して以下のような4段階で評価を行っている。

- A (4点) 概ね達成できている
- B (3点) 具体的な活動がなされており、成果も現れている
- C (2点) 具体的な活動がなされているが成果が現れていない
- D (1点) 具体的な活動がなされておらず成果も現れていない

次年度の周年に向けて準備を同時並行で進めながら通常の業務を取り組んだ1年であった。少しずつ計画的に進めることで、全体の見通しをもち、仕事の負担感を軽減できるようにした。その過程で教員が力を合わせ、協働して業務にあたっている。校内研究を通して授業改善も進み、指導力向上を目指している。授業づくりは児童理解が深まり、学力向上や生活指導力が上がっていく根本である。保護者や地域からの信頼に応えられるよう、今後も以下に評価結果・分析と改善の方策を示し、次年度へとつなげていく。

節	項目	評価の視点	R6	R7	評価結果・分析	改善の方策
教育課程の編成	教育目標	学校・月目標の意識化	3.5	3.4	年間の指導目標や計画に基づいて計画的に取り組めた。「うめのキッズカリキュラム」は学校目標との関連をもたせ、学校独自の年間指導計画を立てている。更新しながら授業改善もでき、指導力向上へ向けて着実に進めている。	「うめのキッズカリキュラム」は校内研究と関連しながら更新し、次年度はさらに分かりやすいものにしていく。
	教育計画	生活時程・時間割配当・学校行事の運営	3.5	3.4	年間指導計画の標準時数を確保しつつ、無理のない時間配当や行事の配置を行った。	次年度は周年行事があるため、年間行事の配置を分散させ、児童に負担がかからないようにゆとりのある計画を立てていく。
	経営方針	健全な教育環境 職務の合理化	3.0	2.7	今年度のうちに周年準備を校務分掌上位置付けて運営してきた。その分業務量は多くなったが、70周年に向けて2年計画で業務を分散させているので、次年度の負担を軽減できている。	年度を越して仕事量を調整し、組織編成も工夫していく。
教育課題対応	人権教育	人権尊重教育年間計画、適切な指導	3.6	3.6	毎月の初めに人権指導日を設け人権目標を確認した。教職員が意識高く取り組むことが必要である。	児童の名前を呼び捨てにしないなど、普段から人権尊重の態度を実践し、OJT研修を行い、人権意識が低下しないように繰り返し確認していく。
	特別支援教育	校内委員会や巡回指導、SCとの連携	3.5	3.6	校内支援委員会で児童の実態や支援の方策を検討し配慮が必要な児童の日常的なケアを行った。また、その効果検証を行い、継続や修正を図った。区・都SCやSSWとの連携で多面的な支援を行うことができた。	幅広く関係機関と連携を取りながら、児童への支援を展開できるようにしていく。
各教科	授業改善	授業改善プランを生かした指導法改善	3.1	3.3	昨年度の反省を踏まえ、授業改善プランは作成し実践したが、その後の効果を検証する場も設けた。	今後も年度末に効果検証する報告日を設けて、指導の効果や児童の変容を確認する。
	学び合う学習	学び合いを生かした主体的な学習の展開	3.3	3.3	校内研究組織が中心となって研究テーマに基づき授業改善をしている。授業デザインができるようになってきており、着実に指導力が向上してきている。	児童が学びに夢中になれるような単元開発を行い、指導力向上を図る。
道徳	計画と	副読本・教材、魅力的な	3.5	3.8	主幹教諭による授業実践を全教員で観察し、道徳教育の基本を学ぶ機会	次年度も主幹教諭による模範授業を観察・協議す

	準備	資料の活用			を設けことで、授業のポイントを押さえた授業が広がった。	る時間を設け、指導力向上を図る。
特別活動	委員会活動等	クラブ、委員会活動への主体的な参加	3.6	3.6	児童数と教員数のバランスを考え、無理なく実施できる体制を組んで実施できた。児童に運営を考えさせる指導に努めた。	児童に問いかけ、考えて活動する指導を引き続き行っていく。
総合	総合的な学習	単元開発と授業デザイン 体験的な学習	3.7	3.7	「うめのキッズカリキュラム」を作成しつつ、ゲストティーチャーを招いての体験的な学習を多く行った。児童の「はてな」を大切にし、問いかけを中心とした対話をするこ	学校としての総合的な学習の時間の学年ごとのテーマを固めていく。
特色教育	特色ある教育活動	業間体育的活動（70m走）やドッジボール週間等の活動	3.7	3.6	広い校庭のよさを生かして業間体育的活動やドッジボール週間、持久走週間、縄跳び週間などを設定している。基礎体力作りとなっている。	オリパラ教育の学校レガシーを継続しつつ、体力向上や礼節等を学ぶ機会を継続する。
生活指導	生活指導	配慮を要する児童についての情報共有	3.7	3.6	毎週的生活指導夕会で、配慮を要する児童の現状を伝え合い、共通認識のもとに具体的な対応や今後の働きかけ等について考えた。	今後も校内特別支援委員会を中心に、児童の困り感をとらえ、家庭に寄り添っていく。
生活指導	安全指導	避難訓練・セーフティ教室	3.6	3.6	学校ファミリーで同日に引き取り訓練を行うなど、実際の災害を想定して避難訓練を実施できた。	避難訓練等は今後も実際に即してできるように更新していく。
生活指導	研修	校内研修の内容	3.5	3.4	年3回の服務事故防止研修やOJTミニ研修会の開催を行った。教員のもつ専門性を生かした研修会ができた。	必要感に応じた研修会を主任教諭連絡会を中心に計画的に実施する。
施設設備	施設	体育館や校庭、プールの管理・修繕	3.6	3.2	プールの修繕が終わり、安全に水泳指導ができた。環境整備は随時点検をしながら改善・補修した。	細かな修理がまだまだあるため区へ申請・要望を伝えたり、用務主事にできることは随時直したりしていく。
組織運営	組織	企画会・職員会議の内容・運営	3.5	3.5	会議等の回数は適度にできている。起案が遅く日程が後手に回る件もあった。	早めに起案を出すことや職朝時間を活用して周知するなど提案時間を分散させる。
学校・家庭・地域との連携	家庭	土曜公開日授業参観 学校公開日の設定運営	3.7	3.6	土曜公開日に合わせて保護者会やPTAの打ち合わせを行うなど時間の工夫をした。	学校公開日に何を優先するか吟味して計画を立てる。
		保護者会・懇談会 個人面談の設定運営	3.5	3.4	夏の個人面談を7月の平日に実施して行事や授業に支障がないよう工夫した。	次年度は周年式典が12月にあるため、12月の個人面談は実施方法を変更して実施する。
	情報公開	配信メールやHPの内容更新状況	3.5	3.8	今年度は印刷によるお便り配布とtetoruによる配信を行った。	紙媒体のお便りは無くしていき、デジタル配信に切り替えていく。
		通知表の様式、内容の分かりやすさ	3.5	3.7	1学期の所見は無くし、夏の個人面談で児童の様子を伝えるようにした。保護者の学校評価では下がったが、理解が得られるようにする必要がある。	教員の働き方改革との関連で丁寧に説明をしていくとともに、児童の様子を知らせる機会を作っていく。